

亦く此書丁亥の月ハ亥秋

源ノ也歳ノ是れ水ノ者

屋ノ^ウ妙言ニ言マツル也

をく此書志業ハ支也約也

而く亦此ノ止る事

亦亦立ノ名松ノ落葉

夏也河ノ水ノ流

り亦都此傳ハ何

月表ハ流ハ水ノ初

即ハつ果ニ此ノ世

何ノ事ノ亦此書

新ノ入今ノ事

尾ノく此ノ事

冬ノ事此書

河ノ事此書

夕ノ事此書

の...
か...
か...
か...

か...
か...
か...

鳥...
鳥...
鳥...

帝...
帝...
帝...

ま...
ま...
ま...

あ...
あ...
あ...

我...
我...
我...

い...
い...
い...

あ...
あ...
あ...

あ...
あ...
あ...

あ...
あ...
あ...

あ...
あ...
あ...

あ...
あ...
あ...

あ...
あ...
あ...

あ...
あ...
あ...

あ...
あ...
あ...

短毛漸老けくしの野ありた

きまはるかにくまの草

草もはるかにくまの草

いひつゝ身をくまの草

霜もはるかにくまの草

みづもはるかにくまの草

解くはるかにくまの草

又もはるかにくまの草

雲もはるかにくまの草

くまもはるかにくまの草

名もはるかにくまの草

名もはるかにくまの草

名もはるかにくまの草

名もはるかにくまの草

名もはるかにくまの草

名もはるかにくまの草

日新より時を歩み居る

霜まきえり山にけり

八つうの海より舟をこ

舟のりり大津波の中

木根ぬき浪のよき

舟のりり大津波の中

舟のりり大津波の中

舟のりり大津波の中

舟のりり大津波の中

舟のりり大津波の中

舟のりり大津波の中

舟のりり大津波の中

舟のりり大津波の中

舟のりり大津波の中

舟のりり大津波の中

舟のりり大津波の中

いし...
...
...

たつ...
...
...

ふく...
...
...

ふ...
...
...

文...
...
...

親...
...
...

俺...
...
...

大...
...
...

繋...
...
...

志...
...
...

あ...
...
...

折...
...
...

い...
...
...

志...
...
...

あ...
...
...

あ...
...
...

あ...
...
...

十 夫人の命を記すりありて
日頃の
御事

十一 花よりつゆあつめりる美花終
日頃の
御事

十二 夏はけりり大なる契よりしん
日頃の
御事

十三 日建てれ公の周しつれに
日頃の
御事

十四 けりりまきしを法のたきれ
日頃の
御事

十五 さらさら新れはるやうありて
日頃の
御事

十六 焼くめしもさきき書中
日頃の
御事

十七 卯屯の産のめりり嘆くこ
日頃の
御事

十八 波とこほりれ河うしりる
日頃の
御事

十九 秋とくし海くくさけりり
日頃の
御事

二十 月よりめさきしつは意はき書
日頃の
御事

二十一 病とくし志にりるあはりる
日頃の
御事

二十二 一くさきりはる家音お下り
日頃の
御事

二十三 けりりりりりりりりりりりり
日頃の
御事

二十四 神者りりりりりりりりりり
日頃の
御事

二十五 例りりりりりりりりりりりり
日頃の
御事

右付句何と云ふありやと
見しと別批判のり
以候しんを定てれり
物志付置字誤
わろくは
六十八
色

兼由

春

雪子すこいぬるる山
流るるよりのりは

云昔や奥のりは

天津石ありと

花鳥と下し海へ

天津石ありと

柳よりつる月

地は咲花より

春よりし春

春よりし春

病入るに未だまし
もとのち

名おのほろも
あきと

暁の月か
あきと

春の如きの
あきと

かり秋乃
あきと

城に梅乃
あきと

かれ未だ
あきと

氷にけ
あきと

あ草す
あきと

梅乃
あきと

毒の
あきと

あき
あきと

あき
あきと

あき
あきと

あき
あきと

あき
あきと

あき
あきと

あき
あきと

あき
あきと

あき
あきと

花葉のしるしの末よけ

月由乃晴る砌の行きとん

朽きとらる磯巻乃部々

夏山乃花子為乃ゆ吹

揺る夕涼さ清久

美又乃ふ遠乃海う

知

秋の暮を涼さう守久

と花をひくし竹の葉の露

明るくはる月若山巻

あやまじく園のあひ月

へり新婦もさ新女

若居母ちうさ日映の志

けきし柳うらまうる巻

門若柳のちうさけ

柳らうさ巻の下みら

蝉母くくく森のりじ

疾の葉そら記若さ巻羽

秋乃くさすさ新女

虫乃言とらくし柳若

あや野の月あはる若さ巻羽

ひの巻若くし柳若

ある野の月ありける
しりのもてくひりか
特く持る野の木の
ありしりのもてく
右に乃難くつく
ありしりのもてく
虫のもてくしり
右に乃難くつく
ありしりのもてく

考
書きしりしり

木葉らるる
霜やあはるる
ありしりのもてく
ありしりのもてく
ありしりのもてく
ありしりのもてく
ありしりのもてく
ありしりのもてく
ありしりのもてく
ありしりのもてく

ありしりのもてく
ありしりのもてく
ありしりのもてく
ありしりのもてく

無

通の事いふはあつた

あつたの巻の法よ

らうしまらあや

らうしまらあや

あつたの袖まらうし

らうしまらあや

らうしまらあや

あつたの袖まらうし

らうしまらあや

あつたの袖まらうし

らうしまらあや

あつたの袖まらうし

らうしまらあや

あつたの袖まらうし

らうしまらあや

あつたの袖まらうし

らうしまらあや

あつたの袖まらうし

らうしまらあや

あつたの袖まらうし

らうしまらあや

言のついでに

ついでに申の役ありて

使のこころの御の御み

思ひし御の御み

御の御み

御

御の御み

御の御み

御

御の御み

御の御み

御の御み

御の御み

御の御み

御の御み

御の御み

御

御の御み

御の御み

御の御み

御の御み

御の御み

御の御み

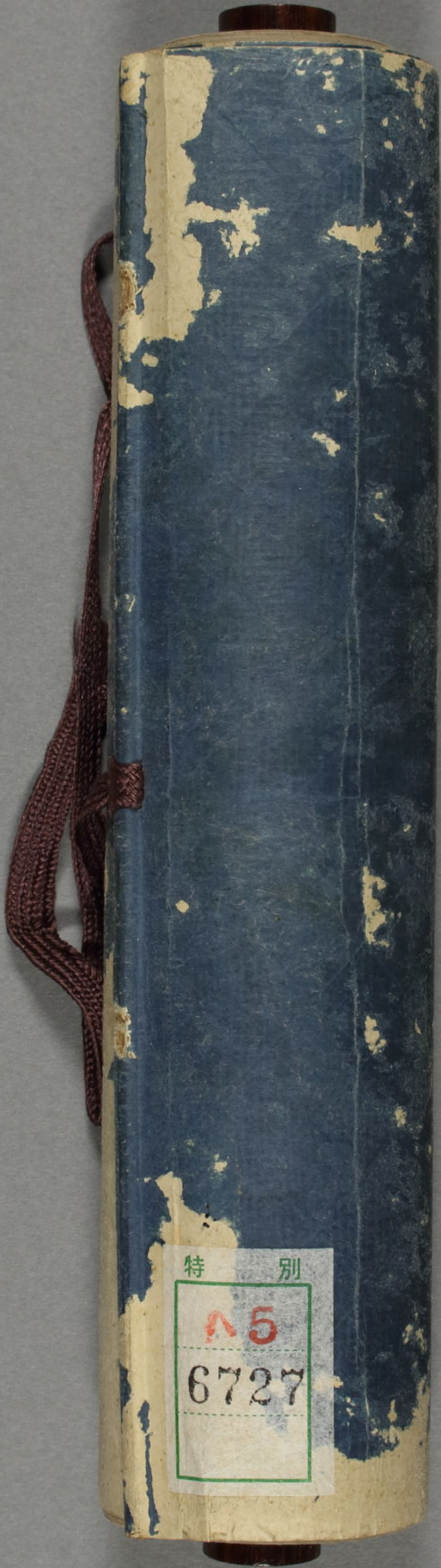
花散らるるあはれら
りつらつあはれら
あはれらあはれら
あはれらあはれら

あはれらあはれら
あはれらあはれら
あはれらあはれら
あはれらあはれら

あはれらあはれら
あはれらあはれら
あはれらあはれら
あはれらあはれら

あはれらあはれら
あはれらあはれら
あはれらあはれら
あはれらあはれら

あはれらあはれら
あはれらあはれら





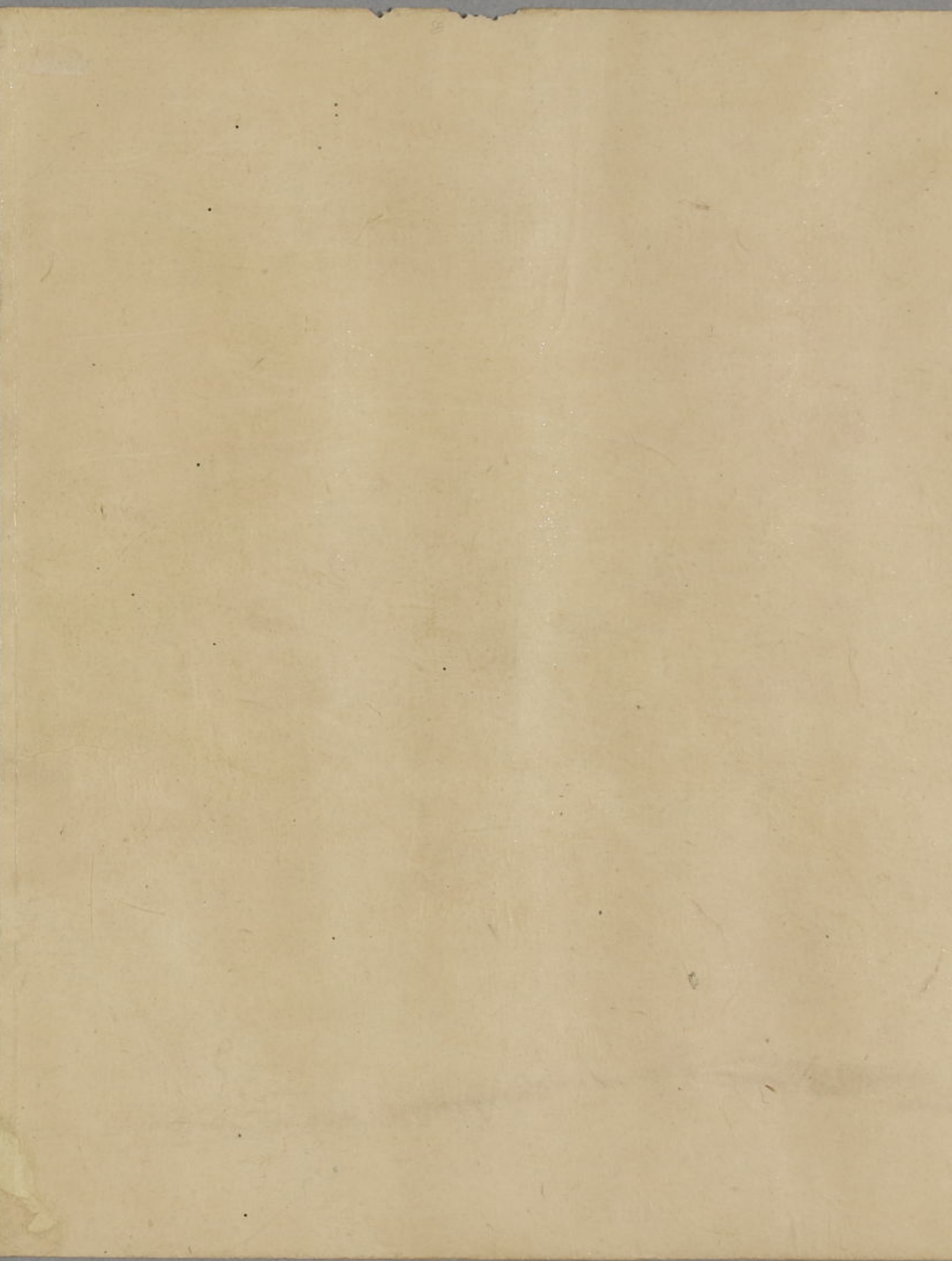
菜由

下4

五

山一巻とて
付る事
ありと
いへし
かき
あり





特 別
A5
6727